

木材価格市況標準相場

令和6年3月4日

東京木材問屋協同組合
価格市況調査委員会

○今月の価格動向

(1) 値上げ品目	4
北洋材・北欧材	4
(2) 値下げ品目	3
合板	3

○今月の市況動向

2月の商況は、荷動きの悪い状態が続いているが、「問い合わせが多くなった」「受注件数は増えている」など、良い兆しを感じさせる品目もあった。運賃・人件費・光熱費・円安など、コストアップの要因だけしかない様な状況で、ウッドショック後に値を下げたまま、販売価格が上がらない現状に少し変化が見られた気がする委員会であった。その一方で、プレカット工場の低い稼働率と住宅の過剰在庫を指摘する報告もあった。

(国産材)先月同様に、構造材は動きが悪い。運賃UP分が価格に転嫁できるかは、これからの課題との内容。納期のない仕事や、細かい注文で忙しい割には、金額が上がらないとの発言もあった。

(輸入材)先月に続き、北洋材・北欧材が値上がりとなった。スエズ運河迂回による影響だけでなく、オファー価格の値上げ、ロシア材においても、戦争で機械部品の調達難、決済条件による資金効率悪化の影響が出ているとの報告。欧州RW集成材の入荷遅れとコストUPの状況にあることから、米材製品への移行を期待したいとのこと。

(合板)国内針葉樹合板では、メーカーの減産継続にて価格維持を試みているものの、歯止めは掛けられず値下げとなった。輸入合板では、1月の輸入統計が20.1万㎡(前年同月比111%)と多い数量になった。これはJAS印の表示変更も影響しているとの報告であった。